

'71

会報



THE ROTARY CLUB
OF TSURUOKA

鶴岡ロータリー

第 590 号

1971.2.16 (火)

例会場 鶴岡市本町二丁目 ひさごや

事務所 鶴岡市馬場町 商工会議所内 ☎ 5775

四つのテスト

— 言行はこれに照してから —

1. 真実か、どうか
is it the truth?
2. みんなに公平か
is it fair to all concerned?
3. 好意と友情を深めるか
will it build goodwill and better friendships?
4. みんなのためになるかどうか
will it be beneficial to all concerned?

会報はご家族みんなで読みましょう

ゝ隔りを取り除こう

出席報告

本日の出席	会 員 数	61名
	出 席 数	48名
	出 席 率	78.69%

欠 席 者 平田君、五十嵐(一)君、金野君、嶺岸君、三浦君、斎藤(栄)君、斎藤(信)君、新穂君、笹原君、谷口君、手塚林治君、上野君、藪田君

前回の出席	会 員 数	73.77%
	修正出席数	50名
	確定出席率	81.97%

マークアップ 阿宗君—新庄RC
五十嵐(一)君、廖君、鈴木(善)君、三井(徹)君—鶴岡西RC

ビジター

佐藤広雄君—北海道恵庭RC
林政一君—酒田RC

スマイル

橋浦君長女出生のため。

三井徹君—経営する病院において上記誕生のため。

会長報告

今日は、次期会長の指名委員会を取り行いました結果の報告を指名委員長からやっています。

それから、頼俊雄君を、このたび米山奨学資金の学生として推選しましたところ、米山奨学資金筋の方からも連絡があり、奨学生としてパスいたしました。それで4月から正式に奨学生として取扱うことになったという通知をいただいており、後刻本人のご挨拶を受けることが出来れば幸いに存じます。

次に当クラブと姉妹クラブになっておりますニューブランズウィックのRCは創立50周年だと思っておりますが、それからの歴史を記した印刷物が贈られてきました。昨年の10月24日ディナーダンスと書いてあるので、夕食をすましてからのダンスパーティーでなどやられたプログラムでないかと思ひます。回覧します。

それからベルリンのRCからクリスマスカードが、また当クラブで10周年記念史を送った鶴岡徒専のインターネットクラブの会長遠田茂君から礼状が届いているので回覧します。

先程申し上げた財団法人ロータリー米山記念奨学会の方から正式な書面が参っておりますので読み上げます。

貴クラブからご推選いただきました米山奨学金候補頼俊雄君に対し、次の通り奨学金を支給することになりましたので御通知申し上げます。奨学金月額3万円、支給期間昭和46年4月から昭和48年3月まで、今後ともよろしく御指導賜りたくお願い申し上げます。

と記してあります。

頼俊雄君の挨拶

皆さん今日は、お蔭様で米山奨学資金をいただくことになり、どうも有難うございました。特に小池会長さんと、上野さんお忙しいところ、いろいろお世話になり、どうも有難うございました。今後どうぞよろしくねがいます。

会長報告の続き

今日は時間の関係でお話を承われませんが、当地におられるので度々例会にも出席していただき、台湾のRCとも親交を深めていただければ幸に存じます。

前回の例会でもお話しましたが、次回の23日の例会は、ロータリー創立記念日に当るので、特別のプログラムをスピーチの中などに採り入れていただくようプログラム委員会の方で取計いねがいます。

それから前回の例会で、次期会長の指名委員会を発表して、早速指名(選考)委員の方々から集っていただき、選考させていただきました。その決定については委員長の早坂源四郎さんから御報告をおねがいたします。

次期会長の指名について 早坂源四郎君

指名委員会の選考の結果を御報告申し上げます。次期会長として私共全員一致で、三井賢二君を次期会長に御推選申し上げます。

いたしました。三井君は、佐藤伊和治さんが会長のときの名幹事で、その後理事副会長を歴任された練達のロータリアンであります。私共同君が早速御承諾いただけるものと、本日の席上で御承知いただければ幸に存じます。

次期会長指名をいただいて 三井賢二君

唯今、早坂指名委員長より、次期会長候補の指名を受けましたけれども、私自身未だ腹も決っておりませんし、かてで加えて昨年の暮以来体が不調であり、今日も午前中荏内病院で診察を受けてきた状態です。従って、会長をお引き受け出来るかどうかは、次週まで御待ちいただきたいと思います。

会長職務と健康について 張紹淵君

ちょっと会長のことにふれますが、三井先生が会長に就任するときも、三井先生が非常に健康のことで心配しておりました。今度の三井賢二さんも、健康上のことで随分心配されているようです。会長をやられると非常に健康がよくなります。どうか健康が悪いことなら、健康を回復するために会長になられることをお奨めします。というのは経験によると安齋先生がそうでしたが、山登りなどをした方ですが、健康をそこないよくなかったときにガバナーの重責に就いて、いけるか否か案じていたが、やはりはじめたら体調がよくて、今でも富士山に登りたいと言っている状態です。三井先生もそうです。大変健康をそこなかったか見えましたが、前年度会長をやられてから健康快調そのもののように見受けられます。どうぞ、そのような訳で、こころよく御引受け下さるよう、三井賢二さんにねがいます。

世界のエネルギーの現状について

池内方平君

前回は日本経済の行きづまれる現況についてお話しましたおわりに、機会があればエネルギー問題について少しお話したいと言いのこして降壇しました。

今日は別にスピーチの予定もないそうですから、暫時私のもってるものをお話し申し上げ

げたいと思います。

皆様御承知のように、石油問題は今日見通しがついたようであります。石油産出国が、値上を要求したのです。これに対してメジャーいわゆる石油資本、8つありますが、アメリカ、イギリス、フランス、オランダの中の8つの石油資本があって、それとの折衝が話について、1バレル当り35セントの値上をのんだということです。

これから値上の問題が精製会社でどの位まで値上げするのか、我々消費者にどういう風にひびいてくるのか、そこところが問題らしいようです。きくところによれば、約石油の売上が3兆円といわれ、そのうち1兆円が税金だそうです。今月のテレビでも、石油連盟の出光会長が言っておられました、結局税金を或程度下げてもらって、その分で或程度負担するし、それから自分等もいささかなりとも努力すると。それから商社の方も負担していただきたいと。こういう事で、これからの問題と言っておられたので、物価騰貴の現段階において、石油そのものが上るとすれば、また物価にひびいて行くことは当然であります。

ますます物価は高くなる方向に進んでいる訳ですが、しからば石油というものが世界にどの位あるかという、日本経済新聞に出ているのをみますと、中東アジアは世界の産出量の70%位出しているということです。外に東南亜細亜とかアメリカ、カナダ、南アメリカと、こういうところに産出されますが、全体の70%が中東アジアから生れ、日本がそこから90%買っている現状です。

世界の確認された石油の埋蔵量は、約600億トンをきっており、5百90億トン位です。世界で一年間に消費する石油の量が、23億トンで、これで約600億トンの確認された埋蔵量を割りますと、25~26年しかない訳です。

これから、こうい出る状態になりますと、日本も、一つも石油を掘りす井戸をもたないので、資源開発をやって石油を開発しようという政府の方針が決ったようですが、これか

らの問題ですので、果たして掘り当てるか否かはわかりません。

我々も近代産業においては石油というものは、我々の血液に相当するものでありまして、石油なくして産業なしという状態です。日本では大体1億8千万トン位消費しております。これから年々消費量がふえて、1985年即ち10年後には約4倍になるだろうといわれております。それで年間8億トン近い石油を消費することになります。

それがあって、はじめて日本の高度成長が15年間続く訳ですけれども、石油が若しなかったならば、日本の産業というものは、足ぶみ状態になるのではなからうかと思いません。

さきに石炭エネルギーから石油エネルギーに変わって、まだそう永い期間は経過しておりません。

昭和16年即ち今から30年前には、日本で約230万トンの石油を輸入しておりました。現在の1億8千万トンに比べ何百倍という開きがあります。

その石油埋蔵量のさきが見えている現在、今後一体どうなるだろうかと。日本が自衛隊の四次防とか何かに盛んに軍備拡張をやっているように世間では吹聴されておりますが、如何に兵器をつくっておっても、石油エネルギーがなかったなら飛行機も飛ばないし、戦車も動かないという状態になります。勿論自動車も動きません。工場も動きません。そういう日本には石炭は別として石油がないということ。現在は液体燃料を使っているので石炭では間に合わないということです。

日本の将来として、石油をもたずに伸びることがあり得るかどうかについて、よく原子力がどんどん開発されるから大丈夫じゃないかと考えている方があるようですけれども、原子力にもウラン燃料が必要です。

日本は今アメリカから濃縮ウランを買っておりますけれども、そのウラン鉱も、世界各国がさがしておるが、そうないのです。日本では鳥根県ですか、鳥取県ですか人形峠に少

しあるということはきいております。しかしこれは問題にならない量ということです。

現在先程申しました石油の大資本メージア連中も、既に将来を見透して、ウラン鉱をさがしているとのこと。それは莫大な資本をもっておりますので、金にいとめなく、ウラン鉱の調査をやっていると。そして鉱区の申請する具合で、石油よりも次のエネルギーをねらって彼等は網を張っているということでもあります。

核燃料のウランのエネルギーはそのような状態でありますので、ウランの核分裂反応のエネルギーを使うのも、ウラン鉱がなければ出来ないで、これも限られたもので、寿命は原油よりも早いかもしれません。

次にならうのは、核誘合反応これは非常に無限大、太陽のエネルギーが、核誘合反応のエネルギーであります。太陽のエネルギーと同じエネルギーを造り出そうとして現在、いわゆる誘合反応の研究中なのですが、これは海水の中には重水があり、重水を使用することにより無限に我々はエネルギーがとれることになります。これが解決しますとエネルギーは完全に解決することになりますけれども、これがまた非常に難しい問題がある訳です。

温度が1億度以上を必要ということ。現在の我々の知っている範囲内における。物質の熔解点は、精々5千度以下です。それで鉄は1,500度、タングステンでも3,000度～4,000度で駄目になります。

そのような容器がないので、1億度からの温度をどういう風に使って誘合反応のエネルギーを集取するかということに大きな問題がひそんでおります。

人類の将来を考えますと、石油エネルギーは先が見えてきていること、ウランだって大した期待は出来ないが、石炭は相当の埋蔵量があります。これは500年位は使えるとのこと。それで再び石炭エネルギーに帰るのか、その前に核誘合反応のエネルギーを人間が開発することが出来るのか、これが一つの

問題であります。

若しそれがちぐはぐになった場合には、人類の世紀は完全にとまるだろうし、或は50年や100年はバックしなければならぬようになるかもしれません。そのときには再び山の方に薪炭屋がごんごん復興するかもしれません。そういう時代がこないとは誰も保証しておりません。

どうぞ、エネルギーというものは、非常に我々の発展、人類の文化には重大欠くべからざるものであるけれども、それがすでに先がみえているものがいくつもあること。

現在我々が使っているものは、20年、30年もたない状態にあるのだということをお考えねがって、日本の経済発展とエネルギー問題というものは非常に大きな問題であるということをお認めねがえれば、今日の話の目的は達したと思います。

幹事報告

会報到着 鹿児島RC、上の山RC、酒田RC

例会場変更

山形西RC—3月1日～6月30日

会場大沼デパート改築工事のため、その間山形商工会議所内三浦記念館において行う。